

# 小学校 第1学年 生活科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校  
教諭 菊池 勇希

**単元名** きせつと なかよし あき (14 時間)

**単元のねらい**

秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけ、それらで遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然のおもしろさや不思議さ、野原や公園のきまわりを守ることに気づき、季節の遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

**本時のねらい**

秋の野原や公園の変化を思い起こして、生活の変化や自然の様子に気づき、秋にできる遊びについて期待をもつことができるようにする。(第1時)

**指導時期** 10月上旬～11月上旬

## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

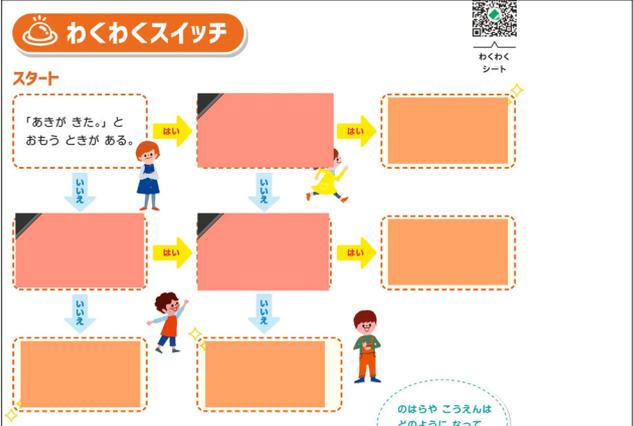
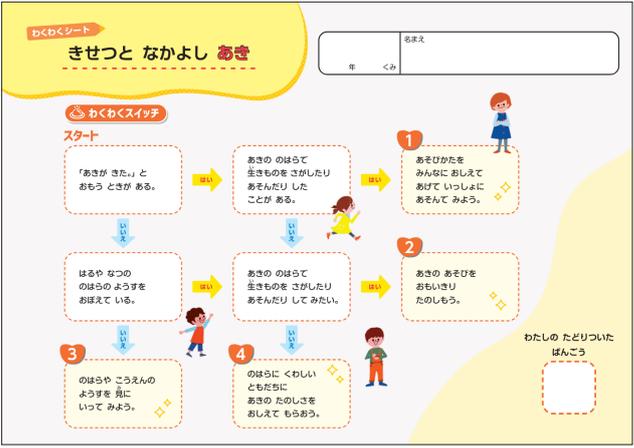
本時では、今後行う秋の野原や公園で秋を探したり、見つけたものを使って遊んだりする活動への期待を高め、それらの活動への思いや願いを醸成することをねらいとしている。

従来の紙の教科書であれば、教科書 p.65 の「わくわくスイッチ」は内容が全て見えた状態で示されている。しかし、「指導者用デジタル教材」では「めくり」や「付箋」の機能を用いることでセルの内容を隠し、児童の発言をもとにしながらセルを進めたり、セルの内容について全体で考えていったりすることができ、活動への期待を高めることにつながると考えた。

また、「ズーム」や「書き込み」の機能を活用して、大型提示装置に大きく映し出ししながら児童と話し合いを進めることで、話題を明確にしたり、秋の野原や公園での活動を見通したりすることができ、活動への思いや願いを醸成することができると考えた。

## 本時(第1時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> <li>● 単元名「きせつと なかよし あき」から秋と仲よくなることが目的の学習であることを捉える。(学習活動1)</li> <li>■ T: 今回の「きせつと なかよし あき」では、どんなことをするのか?</li> <li>◎: 夏のときの学習のように、秋探しや、秋の遊びをしようなあ。</li> <li>◎: 秋と仲よくなるのがゴールになると思うなあ。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ズーム」の機能を活用し、教科書 p.64 の単元名の画像を大きく示して、発問する。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋と仲よくなるための学習について、「わくわくスイッチ」を使ってイメージをもつ。(学習活動2)</li> <li>■ T: みんなは、「あきがきた。」と思うときはある? どんなときにそう思うの?</li> <li>● C: 落ち葉を見たとき。</li> <li>● C: 少し寒くなってきたなとき。</li> <li>■ T: 春や夏の野原と比べて、どんなところが変わっていると思う?</li> <li>● C: 葉の色が変わっていると思う。</li> <li>● C: 赤とんぼがたくさんいると思う。</li> </ul> <p>※セルに書かれた内容を尋ねたり、その答えに対して問い返したりして、秋の野原や公園の様子を思い起こせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「わくわくシート」に取り組み、学習支援ソフトウェアでそれぞれの状況を共有する。(学習活動3)</li> <li>● 「わくわくシート」でたどり着いた内容をもとに、秋の野原や公園でどんなことをしてみたいかを伝え合う。(学習活動4)</li> <li>■ T: 秋の野原や公園でみんなはどんなことをしてみたいかな?</li> <li>● C: 落ち葉やどんぐりを探してみたいな。</li> <li>● C: 虫や花を探して、夏と比べてみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数名の児童を指名し、「めぐり」や「付箋」の機能を活用しながら、教科書p.65の「わくわくスイッチ」に取り組む。必要に応じて、「書き込み」の機能を活用し、考えを整理する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書p.65の二次元コードコンテンツを活用し、リンク先にある「わくわくシート」に取り組む。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● してみたいことをもとに、秋の野原や公園で活動する計画を立てる。(学習活動5)</li> <li>■ T: 秋の野原や公園で活動するために、何が必要になるかな?</li> <li>● C: 落ち葉やどんぐりがいっぱいあるから、それを入れる袋があるとよいと思う。</li> <li>● C: 怪我や虫刺されがないように、長袖、長ズボンのほうがよいと思う。</li> <li>● C: ルールを守って、交通安全に気をつけたり、野原や公園にいる人のことも考えて行動したりするのが大事だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ズーム」や「書き込み」の機能を活用し、教科書p.66の画像を大きく示したり、印をつけたりして、児童が必要な準備を考えることにつなげる。</li> </ul> 

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

本時において「指導者用デジタル教材」を活用したことで学習者側が得られる効果やメリットは、「持続的注意につながる支援」と「思いや願いの醸成」であると考えます。

従来の紙の教科書では、「教科書の〇〇ページを開きましょう」などと指示して、児童が教科書をめくりながら該当のページを開くような場面が多く見られた。その際に、途中のページに興味をもってしまい、本時の学習とは異なる内容に注意が向いてしまうことがあった。しかしながら、「指導者用デジタル教材」を活用することで、教師が大型提示装置を用いて、必要な紙面をスムーズに示すことができる（学習活動1・2・5）。それが児童の持続的注意につながり、結果として資質・能力の育成につながると考える。

また、従来の紙の教科書では、学習している単元の先の内容が見えてしまうなど、まだ見せたくなかった内容が見えてしまうことで児童の意欲を低下させてしまうことがあった。しかしながら、「指導者用デジタル教材」では、「めくり」や「付箋」の機能を活用することで、教師が意図的に教科書に書かれた内容を隠して提示したり、その内容が深まるようにファシリテートしたりすることで、「ここにはどんなことが書かれているのかな？」という期待を高めたり、「僕は秋の野原で〇〇をしたい！」「早く秋の野原に行きたいな！」などという次の活動への思いや願いを高めたりすることができる（学習活動2・3・4）。生活科において、児童の思いや願いは、学習の原動力である。「指導者用デジタル教材」を効果的に活用することで、児童の思いや願いの醸成や発展に寄与することができると思う。

一方で、本時において指導者側が得られる効果やメリットは、授業準備の負担を軽減しつつ、より質の高い指導の実現につなげることができる点である。

生活科においては、低学年児童の実態を踏まえ、写真やイラストなどを活用して、具体的な活動や体験を見通したり振り返ったりすることが重要である。その際、「指導者用デジタル教材」の「ズーム」の機能を用いることで、容易に写真やイラストを大型提示装置を用いて児童に提示することができる（学習活動1・2・5）。また、必要に応じて「書き込み」の機能を活用することで、そこで用いた写真やイラストに直接書き込みながら指導を行うことができる（学習活動2・5）。さらに二次元コードコンテンツを利用することで、教科書の内容に準拠したワークシートを活用して学習を進めることができる（学習活動3・4）。